

技能五輪全国大会に 能開総合大の学生が 2年連続出場!!

職業能力開発総合大学校 生産機械工学科
磯野 宏秋

昨年10月26日（金）から29日（月）までの4日間、第39回技能五輪全国大会が福島県郡山市を中心に開催された（写真1）。

この大会には、当大学校生産機械工学科2年生の花見敬士君(22)が、「機械製図」職種の福島県代表選手として2年連続の出場を果たした（写真2）。結果は12人中8位だった。同君は前回の第38回大会（埼玉県さいたま市で開催）にも1年生選手として初参加している。当大学校の学生が競技選手として参加したのは、花見君が初めてである。

「機械製図」は、「機械組立て」「旋盤」「フライス盤」など34職種の中で、唯一の“非公開職種”である。課題内容は競技直前まで選手には知らされず、事前に、課題①：与えられた組立図から形状や寸法を読み取り、指定された部品の製作図を作成すること、課題②：与えられた立体を切断・展開して、二次元の図面に描き表すこと、だけしか明かされない。

国際大会の参加資格は22歳以下

国内大会1位の選手は2年に1度開催される国際大会への参加資格が与えられる。去年はソウルで開催され、また2007年には静岡県で開催されることが決まっている。

国際大会は、「メカトロニクス」職種を除いて、“その大会の開催される年に満22歳以下であること”が条件となっている。大学進学率が50%近いわが国では優秀な人材を集めることが難しく、ましてや現



写真1 技能五輪全国大会の競技風景＝ビッグパレットふくしま



写真2 「機械製図」競技中の花見君（中央）＝郡山総合体育館

役の大学生が企業で養成された選手と対等に競争することは、実質的に不可能に近い。花見君の場合、福島県内の母校で相当の練習を積んでいたため、大学生として出場することができたのである。

ものづくりにこだわる若者たち

今年の1月にソルトレークで開催された“本家”のオリンピックでは、16歳のフィギュアスケート選手や20歳のジャンパーが金メダルを獲得して、話題になった。

若者が持てる能力を競い合うことは技能五輪もオリンピックも変わらない。産業の空洞化とものづくりの衰退が懸念されるなかで、若者たちが競技に打ち込む姿を毎年見続けている身にとって、将来の日本も決して捨てたものではないと思えてくる。